

「事業名：福島県浜通り産米の『食と農の特性』の明確化と地域・食育振興」 2019年度事業の概要

福島大学

連携市町村：南相馬市・双葉地方八町村(広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村)・飯館村

連携市町村との協定締結日：平成18年11月29日(南相馬市)、平成24年1月7日(双葉地方八町村)、平成29年4月5日(飯館村)

現地拠点：楡葉町 双葉郡楡葉町下小埜麦入31 楡葉まなび館内

南相馬市 南相馬市原町区旭町1-8 みなみそうま復興大学内

川内村 双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内

事業のポイント

震災・原発事故以降の福島県産米の価格・ブランド力等の低下、除染水田における収量の不安定さに加え、従来から指摘されている浜通り地域産米の低調な品質・食味を改善する。まず、米のデンプン等の蓄積構造から品質・食味の定常化と向上に必要な要因を解明する。つぎに、米の品質と食味、機能性成分等を明らかにし、高品質・良食味化に必要な栽培技術に反映させる。以上より、浜通り地域産米の安全と安心を確認し市場や販売に資する情報を提供する。また、科学的成果を浜通りをはじめ県内の小・中・高校等に提供し、米生産、品質・食味の重要性、食生活の基本的スタイルの確保の大切さなどを教授する。

2019年度の活動内容

1. 浜通り地域産米の「食と農の特性」の解析と技術移転
2018年度の本事業のパイロット事業の成果(図1、2)をもとに、浜通り地域被災15市町村産米の「食と農の特性」、水田土壌の特性を明らかにする。それらの成果をもとに、「高品質化、良食味化」に必要な要因を明らかにし、栽培制御技術への改善方法を明示する。
2. 講演・情報提供・意見交換
科学的成果を浜通り地域、福島県内の小・中・高校等や市民に情報提供・意見交換する。福島・浜通り地域産米の安全・安心を明示する(右写真は2018年の福島大学食農マルシェの例)。



文部科学省前広場で開催された福島大学食農マルシェ(10月31日)

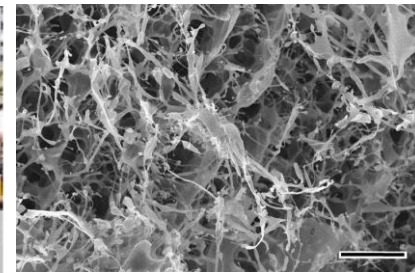


図1 川内村産ひとめぼれ炊飯米の表面(走査電子顕微鏡写真)細繊雑状構造・網目構造、膜状構造が発達している。

取り組みによって得られる成果

【福島・浜通り地域産の米】

- ▼「高品質化、良食味化」に必要な要因の明確化、施肥や水管理など栽培制御技術への反映
- ▼安全と安心を確認し、市場流通や販売に資する情報を提供
- ▼「食農」の促進
 - 科学的成果を、浜通り地域、福島県内の小・中・高校等に提供(講演、模擬授業等)
 - 米生産の重要性、品質・食味のとらえ方、食生活の基本的スタイルの確保の重要性を教授

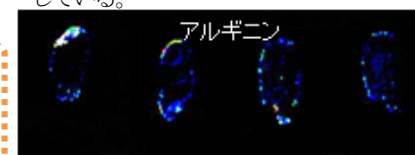


図2 南相馬市産(左2つ)および川内村産(右2つ)精米におけるアルギニン分布。